

平成23年4月1日発行(毎月1回1日発行)  
昭和49年10月15日第三種郵便物認可

# C LINIC magazine

2011  
APR  
4

No.501

【特集】

## 本格化する国際共同治験と日本

循環器領域 大規模臨床試験の経験から

【対談】

大阪府立成人病センター総長 堀正二氏  
VS 東海大学教授 後藤信哉氏

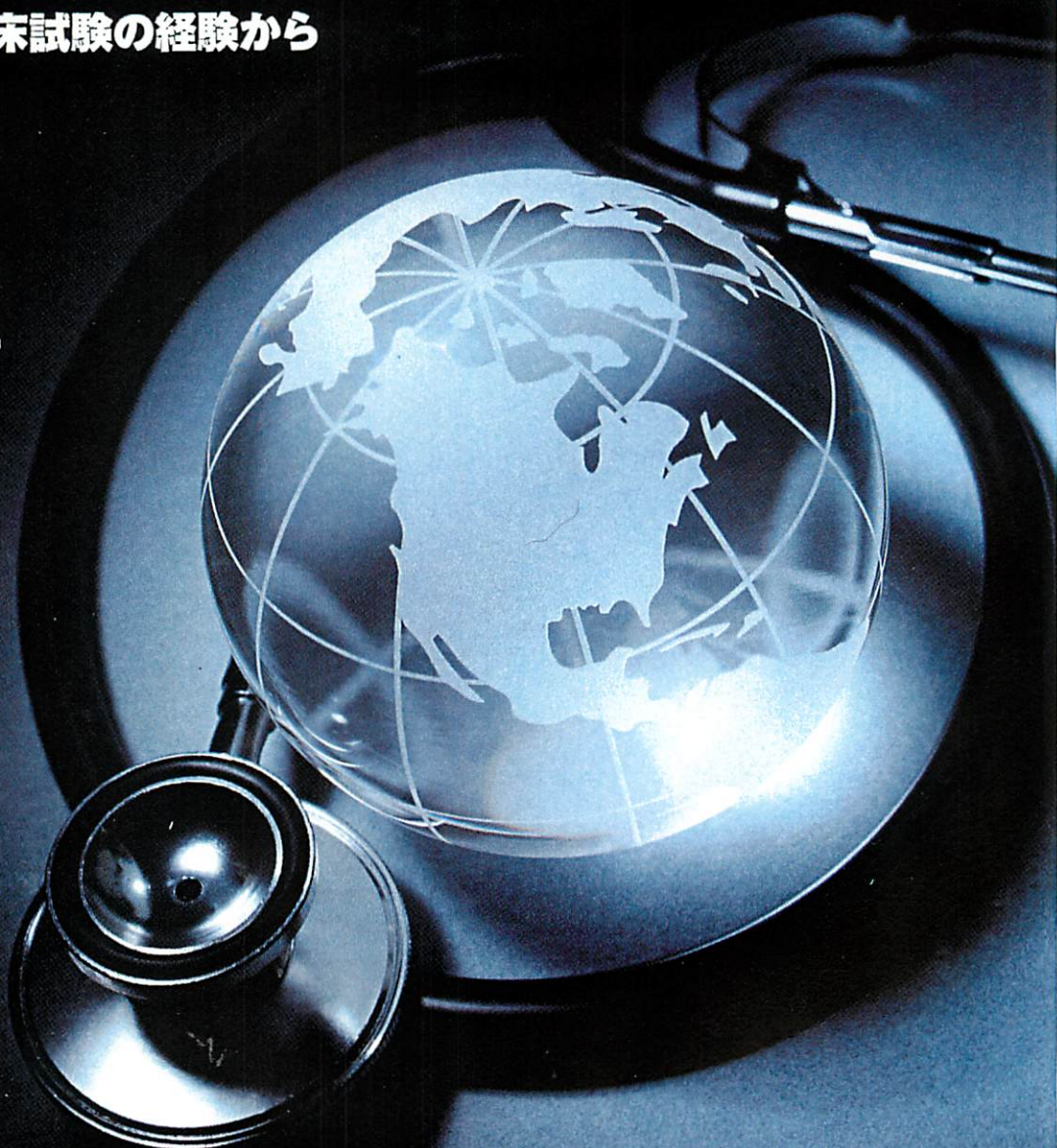
【インタビュー】

製薬企業の視点から

日本ベーリンガーインゲルハイム/バイエル薬品

【特集】

進化する医薬品卸の  
カスタマーサポート



## 対談シリーズ 維新の蘭学医 関寛齋からのメッセージ

第4回 (5回連載)

## 寛齋の養生心得

～予防医療の先駆け～



長尾クリニック院長

長尾和宏氏

参議院議員・医師

梅村 聡氏



※梅村氏は関寛齋の末裔にあたる。

今日のMetSに通じる  
養生心得を新聞発表

**長尾** 野戦病院長として凱旋した寛齋のその後は、どうなりましたか。

**梅村** 戊辰戦争が終わって、寛齋は新政府からの誘いを断って、あっさりと徳島へ帰ってしまいます。私がこのときの寛齋の立場なら、新政府でも何かの役職に就きたいと考えますが、彼は「俺は偉い人を診るような、退屈な医者になりたくない」という台詞を吐きます。

## ■ 関寛齋の経歴

西暦	満年齢	経歴
1830	0	上総国山辺郡中村（現在の千葉県東金市）の農家吉井家の長男として生まれる。
1843	13	前之内の関俊輔と正式に養子縁組。
1848	18	佐倉順天堂に入学。佐藤泰然に師事。
1852	22	佐倉順天堂を修了し、前之内で開業。結婚。
1856	26	銚子で開業。
1860	30	この頃、コレラ流行し、防疫活動。
1863	33	長崎留学。オランダ人医師ボンベに師事。
		徳島藩の御典医になり、徳島に移住。
		御典医として活躍。
1868	38	明治維新。戊辰戦争に軍医として従軍。奥羽出張病院頭取。
1869	39	徳島藩医学校一等教授、病院長に就任。
1872	42	山梨病院長。検梅法を発表して実践。
1873	43	徳島へ戻り、関医院開業。
1875	45	徳島新聞に養生心得を発表。
		町医者として徳島で活躍。貧者の無料診療や種痘にも取り組む。
1902	72	北海道の斗満原野（現陸別町）へ移住。
		農地開拓と町医者として住民の診療を行う。
1912	82	子孫から財産相続訴訟を起こされる。
1913	83	服毒自殺。

**長尾** 面白いですね。

**梅村** やりたいことがあったからです。11月に東京に帰還してきて、翌年3月には徳島藩医学校（現徳島大学医学部）の初代一等教授、つまり医学部長に就任しました。徳島藩病院長も兼務しています。

だから、彼は戦勝で満足したわけではなく、翌年には次のステージに進んでいたわけです。次の自分のミッションを見つけてきているのです。

**長尾** それもすごい話ですね。ところで、関寛齋は今日でいう予防医療の仕事数を数多く手掛けたと聞いています。

**梅村** 長崎留学を支援した濱口悟陵に気に入られたきっかけが、銚子の町医者時代に取り組んだコレラ予防の仕事です。関寛齋がいち早く、佐倉順天堂の先輩がいる当時の江戸種痘所に出向いて、コレラの防疫法や薬品類を入手してきたため、銚子ではコレラ蔓延が防げたようです。

その後も、寛齋は疾病の予防に関して積極的に発言し続けます。

寛齋が明治8年、徳島新聞に寄稿した『養生心得』という文章がありますから、紹介します。

「1に養生、2に運動、3に薬」。何だかいまのメタボリックシンドローム対策のようですね。

**長尾** 全く同じですね。

**梅村** 第1「毎日6時に起きて寝巻を着替え、布団の塵を払い、身体を十分安静にして朝食を摂りなさい」。

第2「毎日の食事は3度に限り、分量を定めるべし。夜中に飲食しないことを最もよとする。しばらく休息し運動しなさい」。

第3「酒、茶菓子の類は食事のときに少々用いて消化を助けるのは害

なしだが、その次元の他に退屈のときに用いるのは害あり」。

第4「午後1時頃に半刻ばかりの昼寝はよいが、その後はするな」。

第5「座っている時間と立っている時間は3：7くらいがよい」。

第6「なるべく風呂に入って肌着は替えなさい」。

第7「月に5、6度は山林または浜辺で4～5里の道を歩きなさい」。

第8「その人の経済的な理由によるけれど、肌着は木綿がよい。肌着は洗って乾燥させること」。

第9「食物も衣服のごとく分限(収入)によるが、新鮮な野菜をよく煮炊きして五穀に混ぜて食べなさい」。

第10「室内は風通しをよく湿気を少なくし、年に1度は天井や床下の塵を払い、寝るところは高く乾燥したところにしなさい」。

この時代に衣食住にわたって、健康な生活を送るための注意事項を提言しています。大阪大学医学部第二内科の予防医学のキャッチフレーズが、「1に食事、2に運動、3、4がなくて5に薬」ですが、寛齋も投薬の前にやらなければならないことがあると見抜き、明治8年に訴えています。

**長尾** まさに1次予防の概念です。寛齋のすごいところは、それを自ら実践することですね。だから体が強くて、70歳を超えてから極寒の地を開拓しようとするのでしょう。いまの感覚でいえば100歳くらいでしょう。病気もほとんどしなかったようですね。でなければこれだけの仕事はできません。現代の医師はメタボ対策と言いながら、自分の生活習慣は変えられないことも多いのです。開業医も、けっこう診療所の

机に座っている時間が長いです。医師も「午後から地域へ」というキャッチフレーズを打ち出しました。医者も街中を歩いて患者さんを訪問すれば、自分たちも健康になれるという寛齋からのメッセージだと受け止めました。

## 勤務医の待遇改善求め 胴上げした役人を落とす

**梅村** 徳島医学校の一等教授と徳島藩病院院長に就いた関寛齋は、この後、おかしな事件を起こしてクビになります。寛齋が求めたのは勤務医の待遇改善です。

**長尾** いまと全く同じじゃないですか。

**梅村** 藩の重役に談判しても、つれない返事ばかりだった。関寛齋はそれが我慢ならなかったのが、役人が開校式で来たときに「胴上げをして地面に落とせ」と指示して、本当にやってしまったんです。

**長尾** スケールが大きいね(笑)。いま、大学病院の病院長が「視察に来た医政局長を地面に落とせ」といったとしても、誰もできない。

**梅村** もちろん寛齋は辞めさせられますが、ただ、これによって徳島病院の医師たちの士気は非常に高まったそうです。

辞めた寛齋は、海軍省に招かれて東京の海軍病院(現在の国立がん研究センター)に行くのですが、1カ月で辞表を出します。当時、梅毒が蔓延していたので、寛齋は自分で梅毒検査体制のプロトコルを書いて、海軍省に提案しますが、受け入れられなかったからです。

そこで、寛齋を招いたのが山梨病院(現山梨県立中央病院)でした。

## 写真1 洋装姿の関寛齋



寛齋は第2代院長に就任し、梅毒検診を実地に行います。これは『検梅毒法』として新聞・雑誌に発表して、山梨県により制度化されます。その後、徳島に町医者として戻ると、徳島県の要請に応じて、徳島でも検梅毒を実施しました。その後のわが国の梅毒検診制度のモデルになります。

**長尾** 驚くことばかりです。銚子でのコレラ騒動は、いまだいえば新型インフルエンザ対策でしょうね。山梨の検梅毒法は、いわばB型肝炎やC型肝炎のスクリーニングでしょう。公衆衛生的知識と具体的な施策を持っていたと。

**梅村** 予防医療に関する関寛齋の業績としては、種痘もあります。これは山梨病院長時代から、徳島の町医者時代まで一貫して種痘を行っています。貧者にはすべて無料で接種しています。貧者無料種痘の実績は、1897年までに5,700人という記録が残っています。

**長尾** そのお金はどこから出たのですか。

**梅村** 寛齋個人が負担しています。

■ 写真2 関寛齋使用の医療器具



長尾 エーッ。

梅村 私はここに予防接種の原点があると考えます。予防接種は本来、無料で行うものなのです。いま、厚生労働省の予防接種部会で予防接種を定期接種化して、副作用に対しては救済制度を充実させるという考えが議論されています。

予防接種とは、脅威を及ぼす感染症に対して、免疫の壁を作るという考え方に基づいています。健康の安全保障です。

たとえば、有事や災害で自衛隊が出動しても、その地域から受益者負担で金を徴収することはあり得ません。予防接種も安全保障の考えに基づけば、無料で行うべきです。

長尾 個人の利益ではなくて、集団

長尾和宏 (ながお・かずひろ)

1984年東京医科大学卒業後、大阪大学医学部附属病院第二内科入局。病院勤務の後、1995年兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。現在、医療法人社団裕和会理事長、長尾クリニック院長として外来診療と在宅医療に従事。『町医者力』など著書多数。

尼崎市医師会地域医療連携・勤務医委員会委員長。

の利益になるからですね。しかし、現代日本ではそういうながら、個人から金を取っている。逆に、私が周囲より安い値段で予防接種を行うと怒られるという実態もあります。

梅村 予防接種部会の先生方にも、寛齋の行動を知っていただきたいと思います。

● 次号は、最終回「町医者のごころ～寛齋の思想は社会主義的に非ず～」をお届けします。

梅村 聡 (うめむら・さとし)

2001年大阪大学医学部卒業後、同附属病院第二内科入局。箕面市立病院、阪大病院で勤務した後、2007年参議院選挙に大阪選挙区から立候補し、128万票で当選。

民主党参議院政策審議会副会長、同「適切な医療費を考える議員連盟」事務局長。日本内科学会認定医。

本企画の主役である関寛齋の末裔にあたる。

患者との信頼関係が医療の質を上げる

医師のための  
患者接遇実践講座

医師のための  
患者接遇実践講座  
川西秀徳 著



B5判80頁  
価格2,310円(税込・送料別)

〈著者〉

元聖隷三方原病院副院長

元ロバート・ウッド・ジョンソン医学校内科教授 川西秀徳

すべての臨床医へ、  
そして医学生、研修医へ

米国滞在27年。

日米の臨床体験から導き出された

患者への癒しの哲学とその実践方法を平易に解説

お申込は巻末の購読申込書(FAX)、電話、HPで

電話 03(3241)4723 FAX 03(3241)4669 URL=http://www.climaga.co.jp/

クリニックマガジン

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2-3-15